

EXHIBIT No.

IPS Doc No. 2377

大正綱要主義 十一月號

よりの抜萃

三國同盟と米國

大島

浩

(一)

今同三國同盟の成立を見、畏れも大詔が深發せられたこと
は固に感激に堪ないところである。

今同の同盟條約の目的は大詔に依り炯ぜとして瞭かである
如く從來同盟條約とは全くその精神を異にしてゐる。古く支
那の書経籍などに天が衆人を生むと共に土地と物とを予て、
其生を養ふ、徳を成さしむるとある意味の二つがある。固に
元もな言ひで、これは天則としていふべきものである。

我國に於ては、神武天皇の神勅に基き、隆盛國以來、常に八
紘一宇の顯現に努め、より日清日露兩國戰役も滿洲事
變も此の大精神が行はれたもので、又現に實施し、より支那
事業も支那を改善し、東亞に新秩序を建設し、よりといふ
理念がうかがへることは、今更申すまでもないことである。

ヨーロッパに於ても獨伊が今同の戦争を始めた目的は從來と
は餘程趣きを異にしてゐる。こゝには神は世界と、二の人種の
爲に造つたのではない。この世の中に生れた人は同時にこの世の中
に生きる権利がある。世界に於ける資源は人類が此の世に生
きる権利を實現する爲に存在するものだと言はれてゐる。権利
などと言ふものがあつて、表現法は違ふが萬邦とも一理を得て
いふところ考へがある。又今同改訂戦争開始後によつ
ては、今同の改訂戦争の目的は、イギリスの樹時干渉を排除

拂て東亞諸民族の福祉に貢獻し尙是を増進に努めつゝあることは改めて述べるまでもない。

若し日本が假に存在しおなかつたやうな場合を考へたら、東亞は果してどんな状態にあつたらうか。世界に於ては、疾く文化の開けた國がある。この國は或はアフリカに、或はアメリカに、最後にはアジアに進出をして来て、多数のアジア民族が歐米先進諸國のたぬに征服せられて、或は半植民地、状態或は半奴隸の状態になつて、資源は悉くこれ等國に独占され、而も住民は働いても働いても、その甘けは持主であるところの歐米諸國に取られて、其の勢ひは底止するところを知らず、一時は支那分割論まで起つたが、我國が單獨で歐米諸國の野心を防ぎ止めて來たのである。

然るに最近に於ける世界情勢の変化は、世界各國の利害關係を著しく交錯せしめ、東亞に於ける新秩序建設も、歐米の事態如何に関すること多く、今因三國同盟の成立したる事は我が企圖を達成する爲め、非常に有利であると考へる。

三國同盟が我國に有利であると共に、我國も亦獨伊の新秩序建設に協力せねばならぬのであつて、從來に比し一層責任が重大になつて來たのである。而して如何にして我國の指導的地位を如実に實現するか、即ち如何なる状態に大東亞を導き新秩序を建設するかは、皇國の直面せる重大なる任務であつて、蘭印、佛印、或はインドその他南洋諸島等の状態は勿論改善せられねばならぬ。速に盟邦獨伊とも謀り、具體的の策案を定め、積極的にこれを実行に着手することが緊要である。

IPS Doc No 2377

に新秩序を歐洲に建設するに在ることを云ふ。

このやうに獨伊の戦争目的は世界に存在する舊体制の不合理を是正するに在りて我國の支那事変處理の目的と相通するもので、これが今同盟の成立に所以である。換言すれば獨伊も日本の發國の大精神である。統一の顯現といふことを理解したのである。

従て今同盟條約は從來の精神を異にせるものであり歴史を見ても今迄も各國間に同盟とか協約とか條約は澤山ありしか、これに異に目今感ぜざるを以て爲におもふに當りてある例は甲國が乙國を討つとする時、丙國を同盟の中に入れてこゝと一緒に乙國を叩く、或は甚だ之に至つては甲乙を叩かんとする場合、丙も同盟に誘はれてよく戦ふ場合、目今に餘り密着して押は丙に之を討たせしむ、けのめを吸はせといふやうなものもある。英國の如きは此の適例である。

今述べたやうに今同盟が世界に新秩序を建設せんとする崇高なる目的を以て、たゞは本條約の大特色であり、我々はこの意義を充分に認識し、本條約の適用も有効適切なく、もつて興學國一致政府を支援せねばならぬと考ふる。

次に同盟の宗旨に就て二三述べるが、今同盟條約に於て獨伊は我國の大東亞に於ける指導的地位を認め、且これを尊重することを定めしむる言ふまでもなく、我國は已に明治以來東亞に於ける安定勢力として、或は日清戦争に將又滿洲事変に尙現に遂行するある支那事変に幾多の犠牲を

拂て、東亞諸民族の福祉に貢献し、尚是の増進に努めつゝあることは、改めて述べるまでもない。

若し日本が假に存在しなかつたやうな場合を考へたら、東亞は果してどんな状態にあつたらうか。世界に於ては、疾く文化の開けた國がある。この國は或はアフリカに、或はアメリカに、最後にはアジアに進出をして来て、多数のアジヤ民族が、歐米先進諸國のために征服せられて、或は半植民地、状態或は半奴隸の状態になつて、資源は悉くこれ等の國に独占され、而も住民は働いても働いても、その甘い汁は持主であるところの歐米諸國に取られて、其の勢力は底止するところを知らず、一時は支那分割論まで起つたが、我國が單獨で歐米諸國の野心を防ぎ止めて来たのである。

然るに最近に於ける世界情勢の変化は、世界各國の利害關係を著しく交錯せしめ、東亞に於ける新秩序建設も、歐米の事態如何に關するところが多いので、今回三國同盟の成立したる事は我が企圖を達成する爲め、非常に有利であると考へる。

三國同盟が我國に有利であると共に、我國も亦独伊の新秩序建設に協力せねばならぬのであつて、從來に比し一層責任が重大になつて来たのである。而して如何にして我國の指導的地位を如実に實現するか、即ち如何なる状態に大東亞を導き新秩序を建設するかは、皇國の直面せる重大なる任務であつて、蘭印、佛印、或はインドその他南洋諸島等の状態は、勿論改善せられねばならぬ。速に盟邦独伊とも謀つて、具體的の策案を定め、積極的にこれを実行に着手することが緊要である。

IPS Doc No 2377

P4

(二)

次には同條約にある二つの現在の戦争、或は紛争に關係を有する第三國の攻撃に対する取扱である。これは政府當局が本條約は決して戦争を目的としておなうものでもなく、また申述へる通りであり又何人も本條約を讀めば平和的なものであることも自取し得るものであるが、新聞電報に依ればアメリカに於ける一部の人士は此の條約をアメリカに対する挑戦であるといふ様であるが、これは誠に不可思議千萬のことと日本が前からアメリカ領土に手を加へやうといふ考へも持たず又その準備もしてゐぬことは吾等周知の事實である。殊に我國は三年餘に亘り、支那事變處理に専心し何を以てアメリカを敵とする必要があるか之はアメリカ自身が最もよく知る筈である。従つてこの條約を以てアメリカに対する挑戦であるとするか如きは我國の東亞新秩序建設を害するものか或は東亞に野心を定藏するものか結論せざるを得ない。アメリカは決して世界の實際創造者ではない。自己の大陸に豊富富饒なる冷食料と充分なる生産力を持ちながら南太平洋を越へて假令にも東洋におゐるまいといふことを考へるならばこれは前記述べた天則に背くものであつて天の舊徴に受くるから、現に條約の前文にも亞細亞の新秩序建設に主する國とは協力をなすものにあることが書かれてある。アメリカが眞に世界平和を企願するならば當然我國の協力してある東亞新秩序の建設に協力をな

IPS Doc No 2377

はならぬ。而して附け加へて言ふにアメリカが同盟を以て
日本を保護せしめ得べしと考へたならば是れ亦大問題
にて支那事変勃發以來アメリカの態度は固に餘り
もかあつたが日本は支那事変解決に専心し、より
與力に對しては安んずるを以て其の及ぶ所の時機を待て
居たのである。アメリカとしては今回の三國同盟の對峙の機會を
逃がしたと考へねばならぬのである。日本國民は元來多額の國民である
。併しこれには限りがあることを知らねばならぬ。若し
アメリカがその豊富な資源を擁して米大陸の
新秩序建設に協力し他の大陸と有無相通する
正當なる政策を行はねばは世界平和に貢獻する
のみならず米大陸住民に取つても多大の幸福を
齎すであらう。以上述べたる如く我が國は三國同
盟に依り新し外交のスタートを切らねばならぬ。
而してこれの成否は皇國の運命に關するは勿論東
亞諸民族の禍福を定め正しき世界正義確立
に大影響を及ぼすものである。我が國民は此の世界
轉捩期に際し、全國一致を以て聖王日を體し
一億一心以て皇國の大理想たる大東亞新秩序
建設に邁進するべしである。